

一同張替壹張

但同斷銀貳匁五分

一八寸上箱挑灯新規壹張

但同斷銀七匁

一九寸上箱挑灯之げ骨新規壹張

但同斷銀八匁

一同張替壹張

此度猶又引下ケ同百六拾八文

一尺上箱挑灯之げ骨新規壹張

同斷銀拾壹匁 但此分銀匁ニ付別段引下ケ高

一尺壹寸上箱挑灯之げ骨新規壹張

同斷銀拾三匁

一尺三寸上箱挑灯新規壹張

但同斷銀貳拾匁五分

一ぶら挑灯新規壹張

此度尙又引下ケ同貳百拾六文

一同張替壹張

同斷銀百貳拾四文

但右之外詔向等前直段ニ准じ引下ケ申候、

右は當五月中直段引下ケ方取調申上置候處此度錢相場六貫五百文ニ御定被仰渡候ニ付右釣合ヲ以猶又引下ケ方前書之通取調此段申上候以上、

但前書引下ケ直段組々江申通挑灯屋共見世先江張札爲致置候様可仕奉存候此段奉伺候、

寅八月

三番組諸色掛り
淺草平右衛門町

名主 平右衛門

提燈雜載

〔北條五代記〕小田原北條家旗馬玄るしの事

北條左衛門大夫家中に、相州甘繩の住人三好孫太郎といふ勇士あり、さし物に挑燈を七ツ付たり、孫太郎が七挑燈といひてかくれなし、然る所に松田肥後守よりきに、山下民部左衛門尉がさし物は、六ちやうちんなり、○下略

〔瓦礫雜考二〕俗諺